

## 貸借対照表(バランスシート)

貸借対照表は、年度末において町が持っているすべての資産と、その資産をどのような財源(負債・純資産)で賄ってきたかを一目でわかるように表しています。残存価格によって資産価値を表しています。

減価償却などにより22年度に比べ資産合計、負債・純資産合計ともに20億6000万円減っています。

22年度からの繰越金の増で1億8000万円増えました。

償還の終了による貸付金の減などで1億6000万円減りました

将来のための基金への積立の増などで1億9000万円増えました。

読書の家の改修や入江・高砂貝塚用地購入などで増えましたが、他の施設の減価償却などで22億7000万円減りました。

地方債の償還終了や繰上償還、繰越事業の減など13億8000万円減りました。

資産の部(これまで積み上げてきた資産)	
1. 金融資産 (基金や現金、有価証券、未収金など)	37億7000万円
(1) 資金 (年度末の現金残高 繰越金)	3億7000万円
(2) 債権 (未収金など)	6億6000万円
(3) その他 (貸付金、有価証券など)	27億4000万円
2. 非金融資産 (公共施設や道路、下水道、土地など)	761億3000万円
3. 棚卸資産 (売却することが可能な資産)	4000万円
<b>資産合計</b>	<b>799億4000万円</b>
負債の部(将来の世代が負担する債務)	
1. 流動負債 (翌年度の地方債償還元金や繰越事業の支払予定など)	19億8000万円
2. 非流動負債 (残りの地方債元金や職員の退職金など)	173億1000万円
<b>負債合計</b>	<b>192億9000万円</b>
純資産の部(現在までの世代が負担した額)	
<b>純資産合計</b>	<b>606億5000万円</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>799億4000万円</b>

純資産比率 75.9%(純資産÷資産×100) 1.1%の増(昨年74.8%)

資産のうちどれだけの支払が済んでいるかがわかります。この比率が高いほど、今後支払っていかねばならない借金の割合が少ないことになります。増加の要因は繰上償還による純資産の増によるものです。

社会資本の現代負担率79.7%(純資産÷非金融資産×100) 1.5%の増(昨年78.2%)

道路や公園などの公共資産を現代の世代でどれだけ負担したかがわかります。新たな建設事業が少ないことから、減価償却などにより非金融資産の価値は減少していきませんが、純資産の減少幅が繰上償還により小さくなったことから比率は増加しています。

負債比率 31.8%(負債÷純資産×100) 1.9%の減(昨年33.7%)

自己資本に対する割合を示すもので、この比率が低いほど財政状況は健全といえます。繰上償還や新たな借入の抑制などにより負債が減少していることから、比率も減少しています。

## 資金収支計算書(キャッシュフロー計算書)

1年間の現金の流れと収支を整理したものです。現金の出し入れを性質別に区分することで、どのような活動に現金を必要としているかを示しています。

22年度から当期資金収支は黒字に転じており、23年度においては経済対策事業などによる支出の増などはあったものの、健全化による歳出削減や公費費の減少などにより黒字となっています。

また、財務的収支においても新たな借入よりも起債(借金)の償還(返済)額が大きいことから、借金残高が減少していることがわかります。

期首(22年度末)資金残高	1億9000万円
当期資金収支額	1億8000万円
1. 経常的収支(行政サービス)	23億1000万円
経常的収入(毎年度経常的に入ってくる収入)	95億3000万円
経常的支出(毎年度経常的に必要な支出)	72億2000万円
2. 資本的収支(資産形成)	3億5000万円
資本的収入(資産形成の財源として入ってきた収入)	1億3000万円
資本的支出(公共施設の整備や基金への積み立てなどの支出)	4億8000万円
3. 財務的収支(町債など)	17億8000万円
財務的収入(地方債の借入)	7億3000万円
財務的支出(地方債の償還)	25億1000万円
期末(23年度末)資金残高	3億7000万円

経常的収入、経常的支出ともに増加しましたが、経済対策等の実施により経常的支出が経常的収入を上回ったため、1億9000万円減りました。

資本的収入、資本的支出ともに減りましたが、繰上償還財源としての基金繰入金の減などにより赤字が1億8000万円増えました。

財務的収入、財務的支出ともに減りましたが、繰上償還や償還終了などにより支出の公費費が大きく減少したことから、赤字が5億円減りました。

基礎的財政収支(プライマリーバランス) 3億7000万円の減  
19億6000万円(経常的収支+資本的収支) (昨年23億3000万円)

起債(借金)の借入と償還(返済)を除いた本来の収入で財政運営を行うことができているかがわかります。

## 純資産変動計算書

貸借対照表の資産から負債を差し引いた支払を終えたもの(純資産)の1年間の増減の内訳を表しています。

期首(22年度末)純資産残高	613億3000万円
当期増減額	6億8000万円
財源の調達(税収・補助金など)	113億1000万円
純行政コストへの支出	73億5000万円
資産形成への支出など	24億円
固定資産価値の変動	22億4000万円
期末(23年度末)純資産残高	606億5000万円

繰上償還財源としての繰入金や減価償却の減などで2億1000万円減りました。

基金への積立は減りましたが、あぶた読書の家や入江・高砂貝塚用地購入などにより4000万円増えました。